

平成29年度滋賀県がん診療連携協議会・第1回診療支援部会 議事概要

日 時 平成29年6月15日(木) 18時00分～19時10分

場 所 滋賀医科大学医学部附属病院 4階 第4会議室

出席者 谷眞至(滋賀医科大学医学部附属病院)

南部卓三(公立甲賀病院)

林嘉彦(市立長浜病院)

小泉聡(高島市民病院)

青木悦雄(大津市民病院)

重松忠(代理:日置)(済生会滋賀県病院)

駒井康伸(長浜赤十字病院)

松井泰成(代理:中瀬)(滋賀県歯科医師会)

小杉奈緒(滋賀県薬剤師会)

吉村雅寛(滋賀県放射線技師会)

寺田智祐(滋賀県病院薬剤師会)

山内智香子(滋賀県放射線治療連絡協議会)

野坂明子(滋賀県健康医療福祉部)

嶋田宏之(滋賀県立成人病センター)

欠席者 土井隆一郎(大津赤十字病院)

川上賢三(滋賀県立成人病センター)

來住優輝(彦根市立病院)

山本寛(草津総合病院)

石川博己(近江八幡市立総合医療センター)

目片英治(東近江総合医療センター)

重永博(滋賀県医師会)

三上房枝(滋賀県看護協会)

山本伸子(滋賀県歯科衛生士会)

醍醐弥太郎(滋賀医科大学医学部附属病院)

オブザーバ 夢田勢津子(滋賀県がん患者団体連絡協議会)

(敬称略)

1. 報告等

(1) 部会員の交替等

部会長から、次の交替部会員の紹介があり、出席の部会員から自己紹介があった。

草津総合病院 山本 寛 第二外科部長 がん相談支援センター長

滋賀県放射線治療連絡協議会事務局 山内 智香子 氏

部会長から、診療支援部会の役割について次のとおり説明があった。

(1) がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価に関すること

(2) がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価に関すること

(3) 高度医療の推進に関すること（がん治療に関する治験・臨床試験を含む）

(4) その他診療支援に関すること

前回の部会（平成29年2月16日開催）の議事概要について、ご意見等があれば事務局までご連絡いただきたいとの依頼があった。

(2) 遠隔病理診断事業について（資料7）

部会長から紹介があり、滋賀県立成人病センター研究所顧問 真鍋俊明 氏から、滋賀県の遠隔病理診断事業について説明並びに協力要請があった。

病理医は全国的に不足しており、今後も大きく増える見込みも無い。また、病理医が不在の病院や1人しかいない病院も多くあり、診断に時間を要している。こういった状況に対して、滋賀県では、標本をデジタル化してネットワークを介して遠隔から病理医が診断する「さざなみ病理ネット」を構築し、現在13の医療機関等が連携している。

このシステムでは、少ない病理医が連携して病理診断ができ、患者さんの結果判別の時間が短縮できること、病理医のダブルチェックによる精度の向上、さらには術中迅速診断にも対応できるようになっている。診療所においても、びわ湖メディカルネットに参加の上、参加検査会社に依頼されると診断結果の確認が可能となっている。

ただ、病院に関しては、経費として、まとまった額の初期費用に加え、維持費を要する。

また、国の動向として、遠隔病理診断が今後診療報酬改定においても評価されること、保健医療分野においてビッグデータ、AI等の技術の活用が謳われており、本事業も、病理学会申請でAMED研究に採択された。

部会員から、有意義な事業で参加したいが、費用面がネックなので、補助金等で助力いただきたいとの意見があった。

部会員から、デジタルによるものと肉眼によるものとは診断の精度に差があるのかとの質問があった。これに対して、既に海外で研究されており、遜色がないこと、速さの面からデジタルの方が優位と見られている旨説明があった。また、標本データの収集に関して質問があり、1人の病理医で多く対応できることを念頭においているので、今後遠隔からコミュニケーションを図りながら、標本とする箇所などを指示できるようにしたいとの回答があった。

部会長から、病理医がいないところは、病理に従事する検査技師もいないと思われるが、それに対する対応について質問があり、滋賀県立成人病センター内において技師を育成している旨回答があった。

(3) 滋賀県のがん・生殖医療体制の構築について（資料9）

部会長から紹介があり、滋賀がん・生殖医療ネットワーク 河合由紀副幹事長から、滋賀県のがん・生殖医療体制の構築について説明並びに協力要請があった。

がん患者の妊孕性温存について、一昨年、本部会で説明した後、平成27年7月に滋賀がん・生殖医療ネットワークを設立し、県内の患者、医療従事者への啓発や、効率的な教育・啓発方法の考案などに取り組んできた。情報提供のためDVD等の資料は、呼びかけ施設である滋賀医科大学産科学婦人科学講座のホームページからダウンロードできるよう

に整備している。

平成 28 年度は、がん患者の妊孕性温存治療事業として、全国初で温存医療の費用助成がされるとともに、がん医療従事者への普及啓発として県内 13 医療施設で計 14 回の研修会を実施し 900 名以上が受講された。アンケートでも有用性が伺え、理解も深まったことが確認できた。なかでもがん相談支援センターの担当者が非常に熱心であった。

今年度は、病院としての組織的対応や、がん・生殖医療の情報管理などに向けて、県内統一の間診票を作成・配布すること、がん患者の妊孕性温存希望の確認から、登録、担当医へと繋ぐ流れを構築していきたいので、ご協力いただきたいとの要請があった。

部会員から、実績値について質問があり、これまで情報提供に留まっていたが、今回は実績把握のための患者登録も事業の目的となっていること、滋賀医科大学での卵巣凍結は 20 件程度であるとの回答があった。

2. 議題

(1) 平成 29 年度の取組について

1) アクションプランについて (資料 1)

29 年度アクションプランについて、実施施策及び年間スケジュールを確認した。

実施施策

- ・先進的(高度)ながん医療について
- ・がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討
- ・がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討
- ・診療支援推進の仕組みの検討等
- ・各団体の取組を把握していく
- ・HP の拡充、メーリングリストの利用によるネットワークの構築

年間スケジュール

- ・部会を 3 回開催
- ・メーリングリストによる情報共有の展開
- ・「がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価」及び「がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価」の検討
- ・先進的(高度)な医療の推進のための支援、連携体制の検討
- ・特色あるがん医療に関してのサイトの一覧を充実する。

2) PDCA サイクルについて (資料 2)

29 年度における診療支援部会の PDCA サイクルの Plan (計画) については、「がん情報サイトの閲覧回数」を指標とし、サイトの充実に向け活動していくこととした。

3) 「がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討」、「がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討」について (資料 3)

部会長から、本議題に関しては、昨年度議論してきたところだが、評価には数値が伴い、各医療圏における状況も異なることから一律に論じることが難しいこと、ま

た、数値の独り歩きが結果として患者の不利益につながるといったことが懸念されるといったこと等、議論の経緯について説明があった。

ただ、各病院の機能や取組を表に出していくことは重要であること、一方で、各病院の負担も考慮する必要があるとの発言があり、資料に基づき、一つの案として、がん診療に関するもので、各病院がホームページ上で広報誌等の形で公開されているものを「がん情報しが」からリンクすることについて提案があり、了承された。

部会長から、後日、各病院にメールにより照会するので、回答いただくよう依頼があった。

部会員から、「がん情報しが」をより広く知っていただくための方策について質問があった。これに対して、部会に宣伝費用も無いので、現状では各医療機関、団体のホームページに「がん情報しが」のバナーを設けていただくよう協力を依頼するに留まる旨回答があった。また、研修推進部会において、がん患者団体から、滋賀県のホームページは身近でないと思われるので、市町のホームページから「がん情報しが」へのリンクについての提言があった旨報告があった。

4) 先進的（高度）ながん医療について（資料4-1、4-2）

部会長から、資料に基づき、「がん情報しが」に掲載している拠点病院、支援病院が実施している「先進的（高度）ながん医療」についての情報更新のため、各病院に照会したいとの説明があった。

部会員から、先進的とは認識していないので載せていないが、載せている病院もあり、基準が必要と思われるので、部会長から案を提示いただきたいとの意見があった。

部会員から、「先進的」という文言が、先進医療と誤解されるので、名称の変更が必要ではないかとの意見があった。

5) 各団体の取組について（資料5）

各団体から、本年度の取組について報告並びに意見交換を行った。

（滋賀県歯科医師会）

- ・行政等と連携して、口腔がん早期発見のための検診システムの構築、受診率向上の方策を検討していく。
- ・「歯科医師等派遣委託事業」が、平成29年度も継続され、引き続き、歯科の無い病院へ歯科医師・歯科衛生士を派遣し、入院患者の口腔機能管理を行う。また、介入の効果のためのデータ収集・分析を行う。
- ・「全国共通がん医科歯科連携講習会」を会員歯科医師67名が修了し、「連携登録歯科医療機関」として、地域の病院等の依頼により、がん患者の口腔ケアを行っているが、引き続き連携推進に向け周知を図る。

（滋賀県薬剤師会）

- ・「在宅ホスピス薬剤師」認定研修会及びフォローアップ研修会を開催。

- ・無菌調製研修会の開催を検討。

無菌調製研修会の年間開催数について質問があり、認定研修会、フォローアップ研修会がそれぞれ4回との回答があった。

(滋賀県放射線技師会)

- ・前立腺がんをテーマにした研修会と市民公開講座を1月にピアザ淡海にて開催する予定。
- ・マンモグラフィ単独検診化に伴う、自己検診方法の啓発活動のために放射線技師が研修会に参加。
- ・今年度滋賀県放射線治療研究会を立ち上げたので、県内施設の放射線治療技術などの情報の共有化を図る。

(滋賀県病院薬剤師会)

- ・病院薬剤師を中心として、症例検討を行う滋賀県がん薬物療法カンファレンスを開催。
- ・このほか、薬局薬剤師も含めた研修会も開催し、薬剤師全体の資質向上に努めていく。

(滋賀県放射線治療連絡協議会)

- ・2回の連絡協議会及び勉強会を開催予定。
- ・協議会ホームページの内容の充実を図る。
- ・県内で開催されるがん診療に関する講演会等への協賛、後援を行う。
- ・滋賀県放射線治療研究会と研修会の棲み分けを図る。

6) HPの拡充、メーリングリストの利用によるネットワークの構築について(資料6) 部会長から、県のホームページ「がん情報しが」のアクセス状況について、前年度に比べて全体的に伸びている旨説明があった。

また、診療支援部会メーリングリストについても活用の要請があった。

(2) その他

滋賀県から、第3期がん対策推進基本計画について情報提供があった。(資料8)

現在、国において、第3期がん対策推進基本計画が審議されており、閣議決定は8月の見通し。滋賀県においても国の計画に基づき第3期計画を作成しているところである。

国の全体目標としては、死亡率20%減といった数値目標は無くなった。

分野別施策のうち、がん医療の充実として、がんゲノム医療、がんの手術療法・放射線療法・薬物療法・免疫療法、チーム医療、がんのリハビリテーション、支持療法、希少がん・難治性がん、小児がん・AYA世代のがん・高齢者のがん、病理診断などが掲げられている。

また、第3期に向けて第2期滋賀県がん対策推進計画に掲げられている施策に対しての現状と評価を行う必要があり、拠点病院等に依頼をさせていただいたのでご回答をお願いしたい。

評価は、個別の病院を評価するものではなく、全体的に評価していく。

がん患者団体連絡協議会から、

- ・遠隔病理診断において患者のQOL向上に触れていただき感謝している。
- ・医療の進展とともに、がんと闘う年数が長くなってきており、副作用と闘う年数も長くなってきているので、副作用や再発・転移に関する情報に加え、食事など日常に関わる情報の充実をお願いしたい。

以上

【配布資料】

- (資料1) 滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート（診療支援部会）
- (資料2) 平成29年度滋賀県がん診療連携協議会PDCAチェックリスト（診療支援部会）
- (資料3) 各病院のがん診療に関するトピックス
- (資料4-1) 先進的（高度）ながん医療一覧について
- (資料4-2) 先進的（高度）ながん医療一覧について（病院別）
- (資料5) 平成29年度 各団体取組予定
- (資料6) 「がん情報しが」アクセス状況
- (資料7) 遠隔病理診断事業の概要
- (資料8) 第3期がん対策推進基本計画案（案）（概要）等
- (資料9) 滋賀県のがん・生殖医療体制の構築

- (参考資料) 診療支援部会 部会員名簿
滋賀県がん診療連携協議会について
前回議事概要（平成28年度 第3回診療支援部会 2月16日開催分）